

## 中将藤原朝臣実方の墓

中古三十六歌仙の一人藤原朝臣実方は、藤原一門の中でも由緒ある家柄に生まれ、美しい容姿をそなえた貴公子として知られています。

特に和歌の才能に優れていましたが、殿上で三蹟の一人に上げられる藤原行成とのいざごから十条天皇より「歌枕を見てまいれ」といわれ、陸奥守に任せられ陸奥の地に下りました。

ある日、藤原実方が土御厨向古産の松を訪ね、その帰路、笠島道祖神前を通り過ぎるとき、村人より窟験あらたかな神様なので馬からおりて通るように言われたが、それを無視し馬に乗りながら過ぎようとしたため神罰が下って落馬し、そのケガがもとでこの地でなくなると伝えられています。

後世、この貴公子の非運の死を哀悼し、西行法師がこの地を指で「朽ちもせぬその名ばかりを留めおきて、林野のすすきかたみにぞ見る」と唄い、松尾芭蕉は奥の細道で「笠島はいづこ五月のぬかり道」と一句詠んでいます。現在でも、歌人たちに由る献句などが行われています。

また、墓の傍らには、実方の歌碑（探狩り…）、西行法師の歌碑があり、参道入口には、松岡馬草の草鞋塚跡、芭蕉の句碑があります。

I-15-①



I-15-②-a



I-15-②-b

## 閑上土手の松並木

(通称：あんどん松)

閑上土手の松並木は、藩制時代に仙台城下と浪速として栄えた閑上浜を結ぶ街道沿いに伊達藩によって浪速から取り寄せて植えられた松並木の一部と伝えられています。

現在、仙台市中田から四郎丸を経て閑上に至る市道閑上四郎丸線が名取川の堤防と出会った地点から、閑上の市街地北端郡付近まで約530mの間に55本残っています。

これらの松並木の種類は、クロマツですが地元の人々はオトコマツ、あるいはオマツと呼んでいます。クロマツは我が国の本州北部から九州（トカラ列島）まで広く分布し、昔から海岸の防風・防潮林として植えられていることが多いが、この松並木のように平均直径75cmで樹高30mにも及ぶ巨樹の並木は今日、宮城県下では見られなくなつたといへん貴重な松並木です。

なお、平成12年度で松並木の内14本を外科手術処理を施し、樹木の保全を図りました。

I-16-①



I-16-③

### 閑上土手の松並木（通称：あんどん松）の配置図



I-16-②